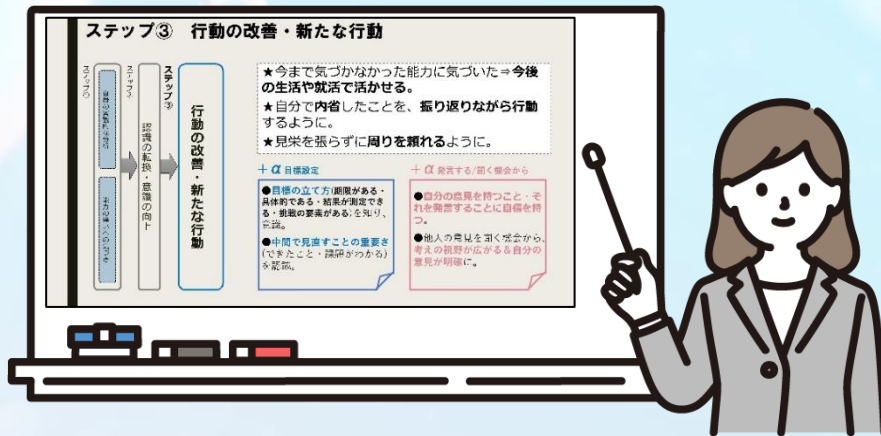


2022年社会人基礎力育成グランプリ 地区予選会で**優秀賞**を受賞！



2月12日に行われた「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」地区予選会にて、米沢女子短期大学チームが見事！**優秀賞**を受賞しました！参加した9名の学生のみなさん、おめでとうございます！



【参加学生より】

<過程に関して>

参加者の積極性が素晴らしいと思った。有志活動の利点であったと思う。自分の役割に囚われない、柔軟な体制と臨機応変な対応がスムーズに進んだ事の最も大きな要因だと思う。やりたい、やろう・やってみよう という雰囲気作りやすかった。

<結果に関して>

(実は)授業での学習のみを取り上げているのは米短だけだったように感じる。その点を踏まえると、優秀賞をいただいたのは評価に値するのではないか。「普段の授業が社会人基礎力の礎になる」という主張が伝わったのではないだろうか。(ここについては後藤先生のプレゼンに脱帽しかない)。1年次中心のチームも恐らく米短だけだった。プレゼン能力は参加した他大学の年上の方々にも引けを取らないのではないかと？

<メッセージ>

「どうせ短大だから…」という劣等感を覆すイベントの1つだと感じた。取り上げた内容の精査を進めれば地方大会突破も夢ではないと思う。就職の前準備・編入の際の面接に活かしたい、という方には是非参加してほしい。自身の能力の成長・可視化と自信の創造に繋がると言える。

【参加学生より】

社会人基礎力グランプリの話が授業で聞いたとき、就活のためのネタというより自分を高めるためにやってみたいと思い、迷いなく参加しました。結果として参加して本当に良かったです。グループごとどんなものが良いか相談しながら試行錯誤し、みんなが同じ目標に向かって努力しました。うまくいかない事、納得しないことなど人それぞれあったと思います。それでも良いものにしようと頑張りました。初めての参加で優秀賞を取れたのは先生をはじめ、みんなが一生懸命な人ばかりだったからだと思います。自分の成長を感じられたとともに、1番は学科の違う普段関わることがない人たちと交流出来たことが嬉しかったです。

大学は自分から行動しないと何も始まらないと思います。行動に移すということの大切さを改めて実感することができました。

【参加学生より】

まず、このグランプリに参加したのは、就活のネタにしようという単純な理由からでした。なので、どのように進んでいくのか全く想像がつかない状態でした。また、初めて対面で皆さんと会う時は、とても緊張しており、上手くやっけていけるかとても不安でした。ですが、リーダーさんや先生を中心に、何度も話し合いの機会を設けてくださり、皆さんとの距離も縮まっていったように思います。途中からはこのご時世ということもあり、対面で会うことができなくなってしまいましたが、オンラインを活用し、積極的に意見を出し合ったり、練習したりしました。

また、チームごとにスライドや発表原稿を作りました。学校の授業と並行して行っていたため、大変だったり、上手くいかないことがあったりしました。しかし、そんな中でもお互いに意見を出し合ったり、作業を分担したりして、より良いものを作り上げようと力を尽くしました。

そして、当初私は発表する予定ではなかったのですが、発表担当になり、正直自分に務まるかどうかわかりませんでした。練習当初も言葉に詰まってしまい、スムーズに進めることができませんでした。ですが、同じ発表担当のお2人や先生、参加者の皆さんに支えられ、練習を重ねるごとに上達していったように思います。そして、グランプリ本番では、今までで1番よいものをお見せできたと思いますし、それが優秀賞という結果に繋がったと感じています。

最後になりますが、私はこのグランプリに出場して本当によかったと思っています。そこに至るまでは、簡単にいかないことが多かったと思いますが、この経験を通して、以前よりは少しでも成長できたと感じています。また、今まで関わりのなかった皆さんと一緒に、1つのものを作り上げるために協力し合い、支え合えたことも私にとってはよい思い出となりました。ですので、何か新しいことに挑戦してみたい、自分を変えるための1歩を踏み出したいと思う方は、今回私が参加したようなグランプリや大きいものでなくてもいいので、自分の自信や成長に繋がるきっかけを持てるようなものに参加してみたいと思います。



【後藤准教授より】

今回の「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」出場を通して実感したのは、米短生のポテンシャルの高さです。また、常に真摯で前向きな姿勢に大きな感動を覚えました。

今回のグランプリへを通して、まさに「社会人基礎力」の面で、メンバーそれぞれが様々な成長を遂げられたと思います。審査員の前でのプレゼン、資料の作成や修正、打ち合わせでの発言や問題提起等々、各人の役割を遂行する中で、確かな成長が感じられました。与えられたミッションをクリアし結果を出す。この一連のサイクルを回すことは、実社会で求められるスキルの一つでしょう。

巷では、「人文系の学部・学科で学んでも、卒業後はつぶしが聞かない」などという声もあります。しかし、今回のグランプリで「優秀賞」という成果を出せたように、米短での学びは実社会で活躍できるスキルも育むのです！

米短では各学科での学びと同時に、キャリア支援教育も充実しています。進学先に悩んでいる高校生の皆さん、ぜひ米短を目指してみてもは如何でしょうか。